

一部地域でナシ黒星病の秋型病斑が多くみられます。

翌年の伝染源を減らすため、秋季防除・落葉処理を徹底しましょう！

[現在の状況]

- ① 10月中旬現在、黒星病(秋型病斑(写真))の発病度は全県では平年並であるが、県南地域では平年より高い(表1)。
- ② 10月中旬現在、黒星病の発生地点率は全県では平年よりやや低く、県南では平年並である。

表1 ナシ黒星病(秋型病斑)の発病度と発生地点率

地域(地点数)	発病度 [※]		発生地点率(%)	
	H30年	平年	H30年	平年
全県(20)	0.9	1.1	55	70
県北・県央(4)	0.2	1.6	50	65
県南(6)	2.8	1.1	83	68
県西(10)	0.1	0.8	40	73

※発病度：圃場当たり 300 葉について発病の有無を程度別に調査し、葉裏面の病斑面積率から算出した値。最小値は 0 で最大値は 100 となる。

[防除対策]

- ① 黒星病の秋型病斑上に形成された分生子は、10～11月の降雨により枝を流下し鱗片に感染する。菌は鱗片内で越冬し、翌年芽基部病斑を形成して一次伝染源となるため、表2および平成30年版赤ナシ無袋栽培病害虫参考防除例を参考にして、収穫終了後から落葉前までに2回程度の秋季防除を行う。特に、本年黒星病が多発生した園では3回以上防除を行う。
- ② 薬剤散布は、10a当たり300リットルを目安に、薬液が徒長枝の先端までよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分には、手散布等により補正散布を行う。
- ③ 秋型病斑を形成した葉は、感染した鱗片とともに翌年の一次伝染源となるため、落葉は集めて土中深く埋めるかロータリー耕によりすき込む等、落葉処理を徹底する。



写真 葉裏に発生したナシ黒星病の秋型病斑(薄い黒色の病斑)

表2 ナシ黒星病に使用できる主な薬剤（平成30年10月10日現在）

薬剤名	希釈倍数	本剤の使用回数	有効成分の種類	同左毎の総使用回数	FRACコード ¹⁾
オキシラン水和剤	500～600倍	9回以内	キャプタン	9回以内	M04
			有機銅	12回以内 ²⁾	M01
チオノックフロアブル トレノックスフロアブル	500倍	5回以内	チウラム	5回以内 ³⁾	M03
デランフロアブル	1000倍	4回以内	ジチアノン	5回以内	M09

1) 殺菌剤耐性菌対策委員会（FRAC）により，殺菌剤の有効成分を作用機構により分類し，コード化したもの。

2) 12回以内（但し，塗布は3回以内，散布は9回以内）

3) 5回以内（但し，休眠期は1回以内）

（注意事項）

- ・ 農薬を使用する際は，ラベルに記載されている使用方法，注意事項を必ず確認する。
- ・ ナシの場合，農薬の使用回数は本年の収穫終了後から翌年の収穫までをカウントするため，注意する。